



「サンメッセレポート2021-2022」はサンメッセのウェブサイトにも掲載しています。
 過去の報告書も閲覧可能です。

<https://www.sunmesse.co.jp/report/>

「サンメッセレポート2021-2022」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

専用アンケートサイト▶https://www.sunmesse.co.jp/form/hp-mailform/mailform.cgi?id=enquete2021_2022



原点回帰

GENTEN KAIKI

そして、未来へ...



- FSC®森林認証紙を使用しています。
- UDフォントを使用しています。
- 揮発性有機化合物(VOC)が少ない植物油インキを使用しています。
- 有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷方式にて印刷しています。

Sun Messe Report 2021-2022

April.2020-March.2022





負けるな、
サンメッセ。

原点回帰

GENTEN KAIKI

過去に戻るのではなく、
未来へ進むために。

自分たちにできること、
やるべきことを
もう一度見つめ直そう。

社会のため、お客さまのため、
そして自分たちのために、
もっと強くなろう。

はじまりは、 みんなの笑顔のため。

当社では印刷業のかたわら、興行事業に進出。
大垣市内に劇場や映画館をオープンさせました。
戦後の混乱期、芝居や映画などの
娯楽を楽しんでもらいました。

印刷と興行の二人三脚



1935年(昭和10年)
活版印刷機1台からスタート



1946年(昭和21年)
大垣市に映画館をオープン



1960年代
幸運を招く「朱竹画」が大ブームに

1935年(昭和10年)、たった1台の活版印刷機から始まった田中印刷所(現サンメッセ)。戦後の混乱期には、芝居や映画などの娯楽で敗戦のショックを癒やしてもらおうと、興行事業へ進出しました。

タウン誌づくりを通じて、 岐阜の若者文化を発信



1975年(昭和50年)、20代の若者をターゲットに「月刊タウン情報ぎふ」創刊



1986年(昭和61年)、岐阜県での就職希望者に向けた情報誌「LEAD」発行



1989年(平成元年)に創刊したグルメ本「Ajidas」が大ベストセラーに

1975年(昭和50年)、20代の若者層をターゲットに「月刊タウン情報ぎふ」を創刊。以来、エンターテインメントからグルメ、ファッション、レジャーなど、岐阜での生活に欠かせない情報を30年以上にわたり提供してきました。

地域振興イベントの大成功に貢献



1989年(平成元年)、地域有力企業17社が発起人となり、日本イベント企画を設立



1995年(平成7年)
花火エスタ95ぎふに191万人が来場



2000年(平成12年)、民間主導の地方博「映画!国ヶ原大垣博」をプロデュース

1988年(昭和63年)に岐阜市で開催されたぎふ中部未来博覧会は、来場者400万人を超える大盛況。日刊未来博ニュースを発行していた当社は、その翌年、日本イベント企画(株)を設立しました。

私たちの成長は、 地域とともに。

1980年代後半、地方自治体では地域らしさを発信するプロモーションが始まります。当社でも、岐阜県のPR誌である『日本まん真ん中ぎふ』の立ち上げに協力するなど、多くの地域プロモーションに貢献してきました。

Local identity



岐阜県ならではの魅力を発信



1990年代前半、岐阜県は地域ブランディングに注力。県内外に魅力を発信するため、PR誌を創刊することになりました。当社はその立ち上げから携わり、洗練された企画・デザインの誌面を展開。現在も様々な地域プロモーションに貢献しています。

地域のじまん、ふるさとの誇りを全国にPR



2007年(平成19年)、岐阜県では地域のじまんとふるさとの誇りを掘り起こすため、ふるさとのじまんとふるさとの誇りを募集するプロジェクトが始まりました。集まった地域のじまんから「岐阜の宝もの」が認定され、当社はそのガイドブックを制作。宝ものを魅力的に紹介しました。

地域の防災情報を発信するツールを制作



大切ないのちや財産を守るため、地域が一体になった防災が必要となっています。当社では、地域の防災ハンドブックやハザードマップを受託し、最新の防災情報を取り入れるとともに、減災のための防災ツールについて提案してきました。

地方への移住定住を促進するPRツール制作



都市部への一局集中から地域への移住定住が進められるようになり、当社では、自分たちのまちに誇りを持って暮らすことにフォーカス。印刷物からWebサイト、ムービー、SNSまでワンストップで制作を担い、展開してきました。

「紙」が好き。 「伝わる」はもっと好き。

1990年代、デジタル技術の急速な進展にともない、地域の文化や歴史、自然などのリソースを、デジタルデータにして保存することが始まりました。当社では、1996年(平成8年)に岐阜県の情報戦略拠点であるソフトピアジャパンに進出し、マルチメディアへとコミュニケーションの幅を広げてきました。



1996年(平成8年)
マルチメディアについて研究・開発する拠点が誕生



2004年(平成16年)、全国地域映像コンクールで
『平方勢獅子DVD-ROM』が総務大臣賞を受賞



2010年(平成22年)、岐阜県の魅力を撮影・編集した
動画サイト「Goovie」を公開

地域コミュニケーションの デジタル化にいち早く対応

1996年(平成8年)、大垣市に岐阜県の情報戦略拠点であるソフトピアジャパンのセンタービルが建設され、当社も同エリアにマルチメディアを研究・開発する「サンメッセ情報館」を開設。地域の文化や歴史、自然などのリソースをデジタルデータにして次世代へ引き継ぐ役割を果たしてきました。



2016年(平成28年)
VRビューアーとコンテンツを開発

12年前からショートムービーでPR

2010年(平成22年)、緊急雇用事業として岐阜県に採用された「Goovie」は、地域で受け継がれてきたレガシーをショートムービーで紹介するポータルサイトでした。その後もVRビューアーをスマホアプリにした「AR+ist」をリリースするなど、デジタルコンテンツ開発を進めてきました。



2021年(令和3年)
Re:touch(リ:タッチ)を立ち上げ

SDGsでどえらい出逢いを次々と実現

2021年(令和3年)、SDGsを世界共通言語に、岐阜県を中心とした地域発展と地方創生につなげるSDGs連携コミュニティポータル、Re:touch(リ:タッチ)を立ち上げました。持続可能な社会の実現に向けたきっかけとすべく、今後もコンテンツの充実に努めていきます。



2022年(令和4年)
SSI-Gの取り組みを開始

Digital Communication

**サンメッセの価値を皆で見つめ直し、
社会から必要とされる企業であるために、
マインドを変え、そして行動していきます。**

原点回帰

サンメッセ株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

田中尚一郎



重大な事故を教訓に、より信頼される会社へ仕組みを変える

サンメッセは、2021年10月、日本年金機構さまより受託した「年金振込通知書」の作成ならびに発送業務において大規模な誤送付を招き、通知対象者さま、日本年金機構さまはもちろん、当社のお客さま、お取引先さま、社員、当社OB/OGの皆さまなど、多くの当社ステークホルダーにご迷惑とご心配をおかけしました。改めて深くお詫び申し上げます。

事故の要因は複数ありますが、問題はそれを見つける、もしくは止める仕組みが機能しなかったことです。品質管理においては従来から4M*を重視してきましたが、それが不十分であったことが大きな反省点であり、個人情報を取り扱う責任の重さを改めて痛感しました。事故発生直後より再発防止委員会を立ち上げ、私が陣頭指揮をとり、すべての業務のワークフローとチェック項目を見直しました。そこで見えてきたムリ・ムダ・ムラを排除し、新たな仕組み・体制の下で業務を進めています。もちろん今回の見直しで終わりではありません。今後も継続して運用に問題があると判断したものは直ちに改善していきます。

*4M: 品質管理における4つの要素。Man (人)、Machine (機械)、Material (材料)、Method (方法)



この過ちを教訓として、より信頼される会社へと成長していくため、会社の仕組みを大きく変えていこうとしています。その主な取り組みが、「IPS本部の新設」と「品質保証体制の強化」です。まず多くの個人情報を取り扱うIPS事業は、この度の事故を踏まえ、「設計」のセクションを備えて、営業・設計・製造という3部体制のもと、IPS本部として再出発することにしました。これからは設計を生産プロセスの中心に据えて、より確実な製品をお届けできるようにしていきます。

また、良いものづくりのためには、やはり自工程保証の徹底が必要だと思います。そのために、品質保証室に営業経験者や製造各部門のスペシャリストを投入し、お客さまになり代わって厳しく品質をチェックする仕組みをつくりました。製造部全体としても抜本改革を進め、各部門の壁を取り払い、縦と横の連携による新たな組織体制を構築していきます。

これらの取り組みを進めるうえで最も大切なことは、各現場にいる社員一人ひとりが「良い製品をお客さまに届ける」という意識を持ってモノづくりを実践していくことであり、社内の意識向上にさらに力を入れていきたいと考えています。



過去最高の売上は、当社に対する激励そのもの

第77期(2021年4月1日～2022年3月31日)の業績は、売上高166億3百万円(前年同期比11.2%増)、営業利益4億63百万円(前年同期比110.3%増)、経常利益6億6百万円(前年同期比56.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2億64百万円(前年同期比13.2%減)となりました。新規のお客さまからのご発注をはじめ、セットアッセンブリ案件の受注増、さらに選挙関連の印刷物、新型コロナウイルスワクチン接種券、プレミアム商品券といった特需もあり、売上高においては過去最高を更新することができました。また、今年10周年を迎えるサンメッセタイランドや、イベント需要の減少という課題を抱えるイベント事業においても、新しい事業の挑戦やコストの削減などに取り組み、グループとしての成長を果たすことができました。

年金振込通知書の誤送付という大きな誤りがあったにもかかわらず、このような実績を残すことができたのは、当社を応援して下さるお客さまのおかげであり、心から感謝しています。もちろん、これはこれまで当社が真面目に、真摯に仕事に取り組んできたことへの評価だと考えています。

一方で新たな課題として、業務が急激に拡大したことによる生産プロセスの見直しの必要性が見えてきました。これまでアナログでやってきたことを積極的にデジタルに置き換えていくほか、同業他社とのパートナーシップもより戦略的に考えていきます。

ハード面では新しい印刷機を2台導入しました。AI機能を搭載し、品質を数値管理できる点が大きな特徴ですが、ポイントはこの導入に伴い、これまで使っていた印刷機4台を処分したこと。しかし、これは仕事を抑制するというものではありません。新しい印刷機の性能を最大限

売上高	166億3百万円 (11.2%↑)
営業利益	4億63百万円 (110.3%↑)
経常利益	6億6百万円 (56.7%↑)
親会社株主に帰属する当期純利益	2億64百万円 (13.2%↓)
年間配当額	一株あたり7円

活用することで、これまで以上の生産パフォーマンスを実現することは可能だと確信しています。こうした挑戦に不安を感じる声が無いわけではありませんが、このようなマインドチェンジがないと、将来に向けた成長はありません。生産改革にもスピード感を持って取り組んでいきたいと考えています。

また資材や物流コストの増加は今後さらにインパクトが大きくなっていくものと予想され、印刷業界を取り巻く環境は益々厳しいものになっています。価格交渉など営業面での取り組みだけでなく、前記のような意欲的な生産プロセスの改善によって、競争力のあるコスト体制を構築していきます。

株主還元について、当社は将来における経営体質の強化や収益の向上に必要な設備投資、研究開発等を実行するための内部留保資金を確保しつつ、経営成績などを勘案し、安定かつ継続的に行うことを配当政策の基本方針としています。結果、2021年度は1株あたり7円の配当金となりました。今後も、基本方針を維持しつつ、株主の皆さまへの利益還元を経営上の重要な施策として、株主価値の向上を目指した配当政策を実施していきます。



増築が完了した本社第五工場



新しく導入した印刷機の起動式

連結 決算ハイライト



原点回帰とは、マインドチェンジ

サンメッセは、創業100周年となる2035年を見据えた新・中長期経営ビジョンを2019年に策定し、その実現に向けて取り組んでいます。「変革への挑戦」をスローガンに、フェーズ1では「サンメッセ・プライド」をテーマとして、自社理解、そして変革、改革に取り組んできましたが、この3年間を振り返ると、社員が理解し行動するレベルにまでは及ばなかったと思います。これは私がしっかりその思いを社員の皆さんに伝えていなかったからだだと反省しています。2022年からは新たなフェーズとして「One Sun Messe」を掲げ、拠点や部門、会社の枠を超えた連携を生み、1つのサンメッセとして事業活動を行っていくことを目指していきます。さらに今年度のテーマを「原点回帰」とすることにしました。原点にはいろいろな解釈があると思いますが、社員自らが自身の原点を見つめ直す。これこそ社員のマインドチェンジを促すものだと確信しています。

当社は、昭和10年に私の祖父母である田中義夫とせきが、たった1台きりの活版印刷機と活字を携え大垣市に創業した田中印刷所が始まりです。小さな印刷所が地域の方々の期待や要望にコツコツと応えてきたことが、私が考えるサンメッセの原点だと思います。社員の皆さんにも「何のために会社は在り、何のために自分はこの会社で仕事をしているのか」ということを改めて考えてほしいと思っています。

私が社長就任時に話した「不易流行」の精神で、変わるものと変えてはいけないものを見極める力を持ち、これまでの意識にとらわれない取り組みを個々で実践していただくことを期待しています。90周年は今の延長線上でもいけるでしょう。しかし当社が創業100周年を迎えるころには、社会は大きく変わっているはず。その変化に合わせて当社も大きく変わらなくてはなりません。そのためにも今、原点を見つめ直すことが重要なのです。



100周年に向けたアクションプランは次のフェーズへ

フェーズ2(2022-2025年)は100周年を迎えるための準備の期間となります。前述の通り、ペーパーレス化の速度は速く、もはや待った無しの状態です。そのためにも事業ポートフォリオの改革を喫緊の課題として取り組んでいかなければいけません。すでにIPS事業、パッケージ事業、コーポレート・コミュニケーション事業、ICT事業、BPO事業など、従来の商業印刷に依存しない新事業の拡大に向けて取り組んでいますが、これらを事業の柱として成長させていくとともに、それ以外の新しい事業の開発にも取り組んでいかなければいけません。

それには、これからの4年間で正念場になるのは間違いありません。そのためには100周年への具体的な夢を私自身が語ることで、社員の皆さんに進むべき方向を指し示すことが必要だと思います。当社にしかできない付加価値を提供し続け、大切な仕事はサンメッセにしか頼めない、そう言っていただけるお客さまを増やしていきます。

その実現には、やはり「人」が鍵となります。100周年を見据えた人財の育成が重要課題であり、サンメッセの次世代を担う経営層を育てるためトライ&エラーを実践できる環境を作り、人財の育成を図っていきます。



私は過去に、東京エリアの第2の拠点として赤坂支店(2011年に東京支店へ統合)やサンメッセタイランドの立ち上げを経験し、様々な挑戦をしてきたことがいまに役立っています。社員の皆さんにも、ぜひこのようなチャレンジに挑戦していただきたい。そうでないと当社は100周年を迎えられないかもしれない、そのくらい強い危機感を抱いています。

2021年度に実施した社員の満足度調査では、残念ながら「満足」と回答した社員の割合が減少しており、当社での働き方や職場環境などに、まだまだ課題があると認識しています。まず「物の満足」では毎年、待遇向上に向け努力するとともに、信賞必罰も含め社員の取り組みを正しく反映させる仕組みが必要だと考えており、改善を図っていきます。そして「心の満足」においては、お客さまや職場から感謝の言葉をかけていただいたり、認められることが必要かと思えます。そのためには、社員一人ひとりの成長が必須であり、やはり「原点回帰」を通じてお客さまにとって価値ある仕事を丁寧に行っていくしかないと思います。そのための支援や環境づくりを、会社として、しっかりサポートしていきます。

その結果、社員と会社がフェアで対等な関係を構築し、やりがいを持って仕事に臨めるような、戦略的人事改革に取り組んでいきます。



サンメッセのサステナビリティは、未来への投資

当社は、経営方針の一つに「環境」を入れるなど、持続可能な社会に向けた取り組みを行ってきました。これをさらに中長期の視点で経営課題として推進していくために、2021年4月、私が委員長を務め、執行役員を中心メンバーとするサステナビリティ経営に関する決定機関「サステナビリティ委員会」と、その実行組織である「サステナビリティ推進室」を立ち上げました。また、2022年2月21日には、岐阜県内の企業として初めて「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。国連グローバル・コンパクトが掲げる、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を支持、推進していくことで社会の持続可能な成長の実現に貢献していきます。



国連グローバル・コンパクトへの署名
(2022年2月21日)



そして2022年6月には、2050年のカーボンニュートラル実現を目指す「カーボンニュートラル宣言」を発表しました。詳しい数値目標や実現までのロードマップは現在作成中ですが、当社では従来から「ハリヨが棲める環境への持続的取り組み」として環境負荷低減に努めてきましたが、気候変動リスクがより高まる中、取り組みのレベルアップをはかることが必要だと考えています。カーボンニュートラル実現は決して簡単なことではありませんが、高い志をもって、これに取り組んでいく決意です。

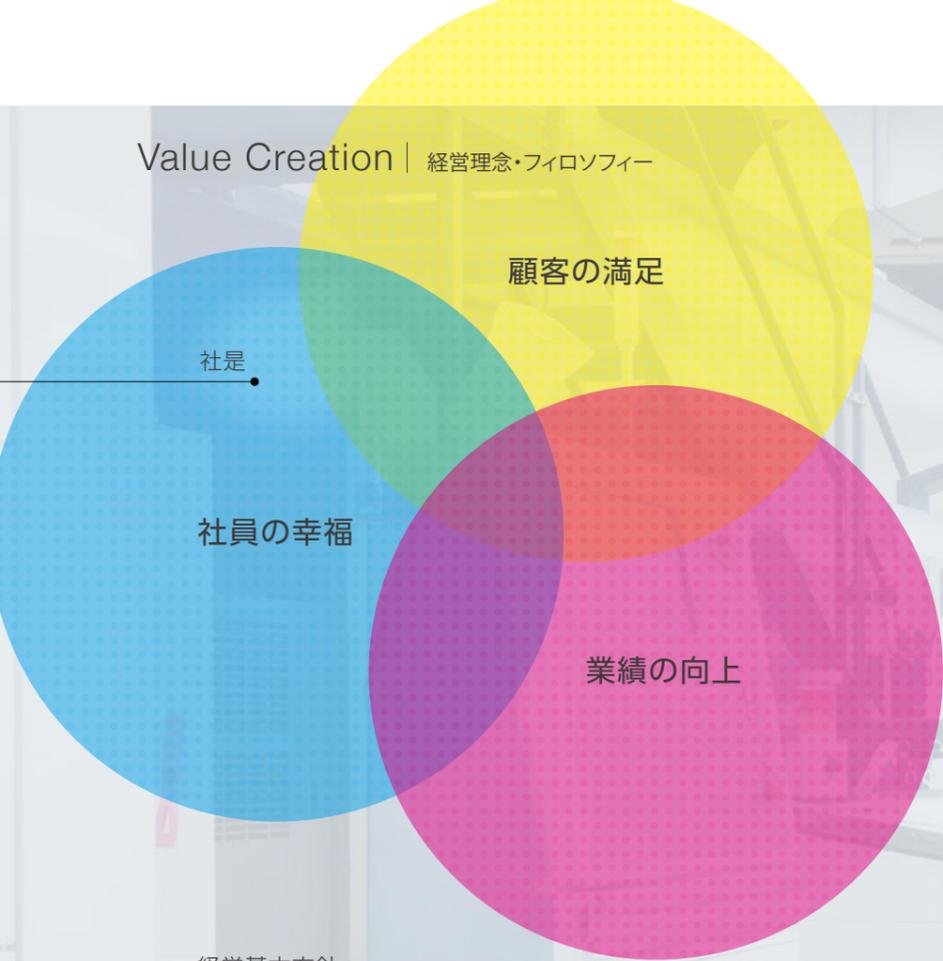


当社では、サステナビリティ活動やSDGsへの取り組みは「社会への貢献」であるとともに「企業成長のチャンス」と捉えています。SDGsにおいては2019年5月に当社ならではのSDGs達成への貢献を表明した「SDGs宣言」を掲げましたが、2022年5月にこれを改訂し、新たにゴール11を重点課題に加えたほか、当社のSDGs活動を体系的に示す、社会価値共創事業モデルSun Messe Social Impact Gifu(略称SSIG)を発表しました。その中核となるのが、SDGs連携コミュニティポータルサイト「Re:touch(リ:タッチ)」*です。こうしたパートナーシップ構築の仕組みが大垣市や岐阜県、そして全国各地で展開されていけば、日本におけるSDGsの好事例として、さらに注目されるのではないかと期待しています。

昨年10月の年金振込通知書誤送付により、当社に足りない部分が明確になりました。全社員がこの事実を重く受け止め、これまで以上にお客さま、地域社会に愛される企業になるためには何が必要か?この問いに全社員で取り組み、その答えを見出していきたいと思えます。そして、もう一度「夢ある企業への創造にチャレンジ」するための新たな一歩を踏み出してまいります。



*「Re:touch」:SDGs達成に大きな貢献をもたらすであろう活動に取り組む岐阜県の企業・団体を中心に紹介し、ともにサステナブルな社会をつくるためのパートナーシップを築くことを目的としたメディア



経営理念
サンメッセは、
革新・法令順守・環境の3つを経営の柱とし、
常にお客様を第一に考え、
人・物・情報を集積・発信し、
印刷を核に、持続的に発展し、
社会に貢献します。

経営基本方針

技術革新

印刷業界は日進月歩で技術が進化を続けています。サンメッセでも、その波に乗り遅れることなく、常に新しい技術を開発し、または設備を導入し、最先端の技術革新を続けてきました。これからも、最先端の技術革新に挑戦していきます。

法令順守

サンメッセでは、法令はもちろん各種規則や社会的規範などを守り、常に公正な企業活動を行うことを基本としています。社内には「監査室(内部統制)」や「コンプライアンス委員会」「リスク管理委員会」などを設け、コンプライアンスに対する社員の意識向上のための整備を進めています。

環境保護

サンメッセでは、社会の一翼を担う企業として、「サンメッセ環境宣言」を発して、印刷を核とした環境保全に努めています。数々の環境にやさしい印刷技術を採用してお客さまに提供している他、社内でも社員一丸となって環境活動を実施しています。

サンメッセフィロソフィー (2020.5制定)

1. 経営の心
2. 先取の精神
3. 奉仕のこころ
4. 仲間への思いやり
5. 仕事への誇り
6. 持続的発展への追求
7. 豊かな人生の歩きかた

印刷は赤・青・黄の3原色を用いて様々な色を表現することから、当社では長年、看板から名刺まで3原色を使用してきました。メッセはサンメッセやサンメッセシャワーを表現したもので、印刷を核にお客さまのコミュニケーションに寄与したいという意味を含めました。

連続性

情報は集積・発信したいという企業マインドを表現しました。

現代性・未来志向

社名のコンセプト



For 100th ANNIVERSARY

100周年(2035年)のありたい姿



サンメッセの事業

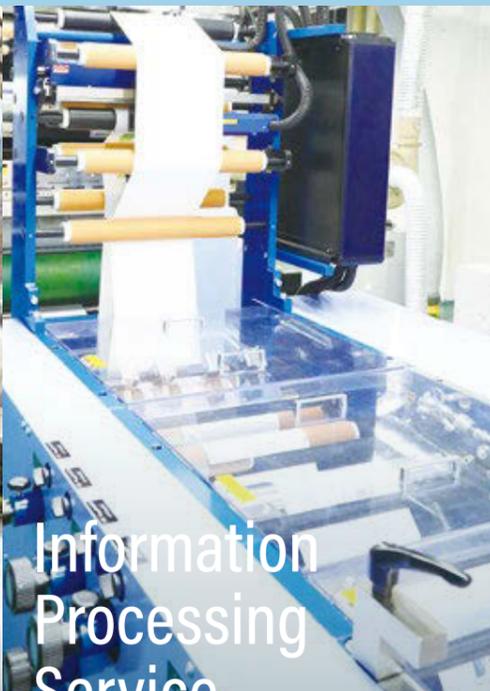
当社は一般商業印刷をコアにしながら、新たな5事業を展開しています。
これらを有機的に組み合わせ、新たな可能性を探りながら、事業領域を拡大していくとともに、より豊かで持続可能な社会づくりに貢献していきます。



Printing

商業印刷事業

カタログ・チラシ・パンフレット・DM・広報誌・記念誌から、伝票・金券などお客様のあらゆるご要望に中部地区ナンバーワンの生産力と高い技術力でお応えしています。



Information Processing Service

IPS事業

パーソナルデータを安全に管理できるセキュリティを万全にした環境設備の下、ダイレクトメールや契約書類、金融書類などあらゆる情報加工技術を提供しています。



Package

パッケージ事業

複雑な形状や化粧品などにも対応できる設備を備え、パッケージの企画・設計・デザインから印刷・加工・アッセンブリまでを社内一貫生産にて対応しています。



Corporate Communication

CC事業

企業の情報開示や会社案内、社内報といった広報ツールなど、コーポレートコミュニケーションを支援するあらゆるツールの提案・企画・制作を行っています。



Information and Communication Technology

ICT事業

Webサイトや動画を中心とした幅広いデジタルコンテンツの制作や、Webを効果的に利用したマーケティング・分析まで、様々なICTビジネスを推進しています。



Business Process Outsourcing

BPO事業

印刷物の製造だけでなく、製品のセットアップからデリバリーまで包括するサービス。セキュリティレベルの高い環境下での作業により、お客様に高いご評価をいただいています。

Sun Messe (Thailand) Co.,Ltd.

お客様のグローバルビジネスをサポートするために、海外にも進出。新たなビジネスモデルを海外にも展開しています。

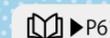


P59



日本イベント企画株式会社

岐阜県をはじめとする自治体関係のイベントを中心に、観光ツール開発からビジネス振興など幅広い分野で展開しています。



P61



Value Creation

サンメッセの強み

サンメッセの強みは、「あらゆる業種のお客さま」からいただく多種多様なニーズに応えることができる「豊富な人財」と「充実した生産設備」および、それらが実現する「社内一貫・一社責任体制」です。すべての工程を社内一貫で対応することで実現する高品質・工程短縮・高セキュリティなどを通じて、社是に掲げる「顧客の満足」の実現に取り組んでいます。



Production Equipment

生産設備

多様化・複雑化するお客さまのニーズにお応えするために、様々な印刷関連機器を備えています。

製造拠点

3拠点

生産設備

172台

Human Resources 人財

当社は社是に「社員の幸福」を掲げており、「人」が、会社にとって何よりの「財産」であると考え、「人財」という言葉を使用しています。一人ひとりの「人財」がそれぞれの能力や個性を活かすことで、当社の強みである「社内一貫・一社責任体制」が成り立っています。



In-house Integrated System

社内一貫・一社責任体制



コンサルティング > 企画立案 > デザイン・撮影 > 制作・校正 > 印刷・加工 > アセンブリー・デリバリー > 分析・改善

社内一貫・一社責任体制が実現するメリット

アウトプットを想定したトータルでの仕様設計が可能

センシティブな情報の外部漏洩リスクを回避

製品の物理的な移動による工程のロスが無い

多能工化による、受注状況に応じた生産体制の柔軟な対応

Customer お客さま

あらゆる業種とのお取引が可能な印刷業界ならではの多種多様な共創関係を構築しています。

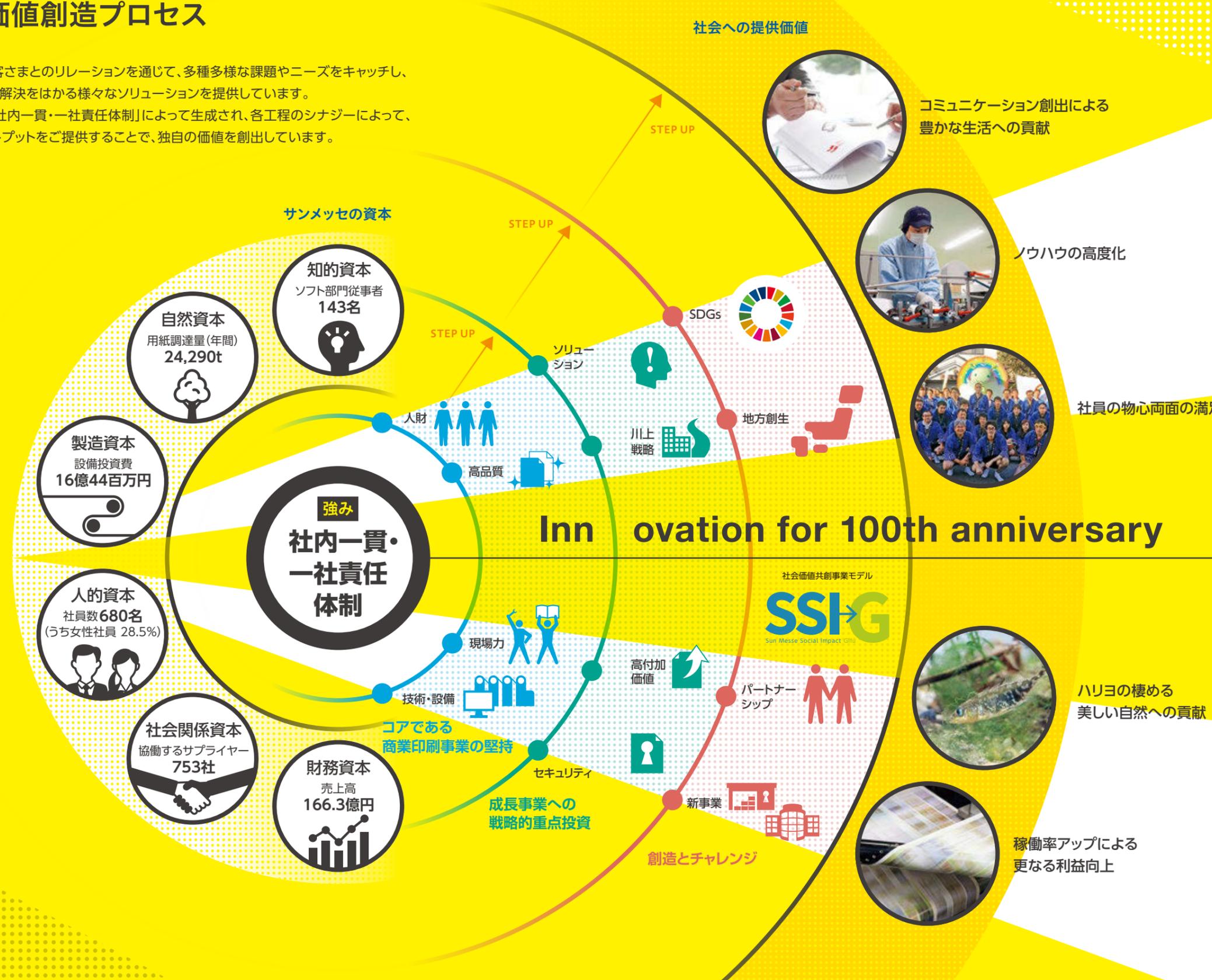
クライアント数

21,022社

サンメッセの価値創造プロセス

サンメッセは幅広い業種のお客さまとのリレーションを通じて、多種多様な課題やニーズをキャッチし、各種資本の活用によって、その解決をはかる様々なソリューションを提供しています。それらは、当社の強みである「社内一貫・一社責任体制」によって生成され、各工程のシナジーによって、お客さまの期待を超えるアウトプットをご提供することで、独自の価値を創出しています。

SDGs で特定される社会的課題や地域課題
地域社会やお客さまのニーズ抽出



2035年
100周年

SDGsへの貢献・
持続可能な社会の実現